

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026年3月10日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	政治経済学部政治学科
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2025年12月30日
明治大学卒業予定年月	2028年3月
留学先大学について	
留学先国	イギリス
留学先大学	イーストアングリア大学(日本語名) University of East Anglia(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2025年9月～2025年12月
留学先大学で在籍した学年	1年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 国際開発学部 現地言語での名称: School of global development <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1学期: 4月上旬～7月下旬 2学期: 9月中旬～2月上旬	1学期: 9月上旬～12月中旬 2学期: 3学期: 4学期:
学生数	12,434人
創立年	1963年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (ポンド) (1 現地通貨 = 約 212 円)	B 日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費		620,000 円	
食費		116,000 円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	40	8,000 円	
現地交通費		円	(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
旅費(留学中)		310,000 円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		37092 円	形態:
渡航旅費		300,000 円	JAL のマイレージも利用
ビザ申請費		3000 円	ETA のみ申請
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	(= 円)	1,394,092 円	
総計(A+B) ※円		1,394,092 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: _____)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: _____)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

夜中は一人で出歩かないように気を付けました。また、市内ではチャックで閉まるカバンを使うことや、スマホに紐をつけて持ち運ぶこと等を心掛けました。実際に犯罪に巻き込まれたことは無かったです。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮および学内にはwifiがあったため、インターネット接続は安定していました。市内でも基本的に接続はできましたが、たまに場所によって接続が弱くなることがありました。しかし、別のsimカードを利用している方は接続できていたため、simによって異なると思います。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本的にクレジットカードを使用していました。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

クレジットカードは2枚以上持っていた方がいいです。わたしは現地で1枚のクレジットカードが利用停止になってしまったのですが、2枚持ってきていたため乗り切ることができました。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
単位	<input type="checkbox"/>	単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 自身が所属する学部の授業から 2 科目以上をとること		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Perspective of global development		国際開発の視点
科目設置学部・研究科	school of global development	
履修期間	秋学期間	
単位数	20credit	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式+セミナー(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回	
担当教授	Martin Scott	
授業内容	国際開発における様々な概念や理論、現状などをオムニバス形式で学ぶ。セミナーは、レポートの書き方などを学ぶ。	
試験・課題等	400word のレポートを 4 つ提出する	
感想を自由記入	様々な教授が国際開発にまつわる基本的な理論を教えてくれるため、とても興味深かったです。セミナーに関しては、この授業が現地の大学 1 年生の必須科目のためか、基本的なレポートの書き方(参考文献、プレゼンの方法、論文の読み方、探し方等)を学びました。基礎的なことを学ぶためか、セミナーに参加する学生の人数が徐々に減っていったように感じました。わたしはイギリスの大学における評価基準等を理解することができたため有意義に感じましたが、人によっては基礎的すぎてつまらないと感じることもあるかとも思います。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
big questions for people and planet	人々と地球への大きな疑問
科目設置学部・研究科	school of global development
履修期間	秋学期間
単位数	20credit
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義+セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が2回
担当教授	Peter Emmrich, Paul Clist
授業内容	なぜ世界の生活水準に違いがあるのか、なぜ紛争及び戦争は起きるのか、環境は持続可能なのか、など様々な世界規模の課題を勉強していく科目。
試験・課題等	授業に関するクリティカルな3つ質問×3回(30%) 最終レポート(70%)
感想を自由記入	基本的に講義形式で、先生が講義の合間に話し合う時間をとります。また、ワークショップとして各授業の振り返りや、ディスカッションがメインのセミナーもあります。ワークショップは、授業の各単元が終わるごとにあり、それまでに授業に関する質問を各自考え提出します。その質問をもとに進められます。経済的な側面、文化的な側面、環境汚染などの数値データ等を用いた情報など、様々な側面から学んでいくため、授業の理解が困難でした。わたしが取った3つの授業のうち一番情報量が多く、苦戦しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Shared Future	共有された未来
科目設置学部・研究科	School of Global development
履修期間	秋学期間
単位数	20credit
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式+セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が2回
担当教授	Robert Grant
授業内容	現在の国際開発における多様なフレームワークについて学習する。様々な国際開発に関わる集団(政府、NGO、企業等)について学ぶと同時に、国際開発の現在の概念を交えて理解する。
試験・課題等	フォトエッセイ(80%) フォトエッセイに関する面接(20%)
感想を自由記入	講義によって教授が異なり、オムニバス形式のようだった。どの教授も優しく、質問があれば気軽に聞ける雰囲気でした。フォトエッセイでは、3つの写真を撮り、それを用いながらエッセイを書くというものでした。わたしはこのタイプのエッセイは初めて書いたのですが、セミナーでフォトエッセイとは何かを例を交えながら説明してくださったので、安心して取り組みました。面接は約10分で、2人の教授からエッセイに関する質問をされるのですが、先生方がとても親身に話を聞いてくださり、リラックスして臨むことができました。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

就職活動はこれから始めます。留学前は国際開発に関わる仕事をしたかったため、NGO や政府機関などを検討していたのですが、留学先の授業で企業の重要性を実感する機会があったため、企業への就職を一番に考えるようになりました。大学2年生の秋学期のみの留学のため、就職活動に影響が出ることはほとんどありません。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	TOEFL等の英語検定の勉強
	8月～9月	出願に向けた準備
	10月～12月	面接等
留学開始年	1月～3月	英語の勉強
	4月～7月	寮や授業等の申し込み、航空券購入、
	8月～9月	留学開始
	10月～12月	課題提出
留学/帰国年	1月～3月	期末課題、帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

わたしがイーストアングリア大学を選んだ理由は、国際開発を学びたいと考えたからです。イーストアングリア大学は国際開発の分野がとても有名だったため、第一希望としていました。イギリスは国際開発の学問分野の発祥国と聞いていたため、留学先を選ぶ際には、まずイギリスの大学を検討しました。わたしは政治経済学部にも所属しているのですが、自身の学部に関連させて国際開発に興味があり、それを現地で専門的に学んでみたいという思いがありました。

教えてくださる教授の方々も国際開発に精通されており、留学生にも親切で、質問したいことがあれば簡単に連絡を取れる状況にありました。授業は講義形式が基本で、授業中に数回、近くの人達と話し合う時間が取られました。その際に、最初の頃は現地学生の話している内容が聞き取れず難しかったです。セミナーは各授業につき週に一度(2時間)開講されることが多く、ディスカッション、授業の補足内容の講義など様々でした。

今回は学部 1 年生の必須授業をとったのですが、国際開発の事前知識がなくても、基本的な概念から説明して下さったので大変分かりやすかったです。また、大学内に勉強のサポートをしてくださるシステム(チューターのようなもの)があり、レポートを書く際に相談したいことがあったら聞きに行くことができました。他にも、カウンセリングのサービスや履修について変更したい等の相談をできるサービス等もありました。そのため一人で抱え込む必要がなく、サポート体制の充実した大学だったと思います。

授業前までに読む必要のあるリーディングリスト(論文や記事、教科書抜粋部分など)が大量にあり、読み終えるのが非常に大変でした。その量は学部によるとは思いますが、これから留学を控える方は、英語の論文や専門書などを速読する練習をしておいたほうが役立つと思います。

わたしの所属した国際開発学部は日本人の留学生が多く、1つの授業に最大で10人ほどいました。人によっては日本人と留学中に関わることを避ける方もいらっしゃると思いますが、帰国後も会うことのできる友人となれたり、授業や留学生活で不安がある際も気軽に相談できました。

イーストアングリア大学は世界中の様々な国からの留学生がたくさん在籍しており、多様性あふれた大学でした。そのためか、秋学期開始前の9月初旬に留学生のためのウェルカムウィークがあり、学部問わず多くの学生と交流する機会が設けられていました。そこでの交流により、私は友達を作ることが多かったです。そのため、留学中に開催されるイベントは興味のないものでも積極的に行くことがおすすめです。ウェルカムウィークに限らず、様々なイベントが常時開催されるため、その情報を常に把握することがおすすめです。わたしは、興味のあるイベントであったのに応募期限が過ぎて参加できなかったこともありました。UEAの学生団体のホームページ等を定期的に確認することがおすすめです。

大学は都心部から離れた場所にあり、のどかで治安もよかったです。そのためか、学生や先生方、大学内のスタッフの方々も親切で、優しい方が多かったです。留学に不安がある方でも行きやすい場所だと思います。

留学を経験し、様々な面で新しい発見や学びがあり、とても充実した4か月間を過ごすことができました。異文化の中で、言葉も容易に通じず辛いことも多々ありましたが、それ以上に得られるものも多かったように感じます。留学迷っている方は、不安なことも多いと思いますが、社会人になると留学できる機会も限られてくるため、時間のある学生時代だからこそぜひ参加してもらいたいと思います。何か聞きたいことなどありましたら気軽にご連絡ください!